

キーペックス 齊藤進社長

常に成長していく



齊藤社長

【千葉】「自分たちが長だが、「ゴールはならなかったサービスではない。生きていく限り、常に成長していかねばならない」と話すのは、千葉市で倉庫事業を手掛けるキーペックスの齊藤進社長。今年4月に社長に就任して約半年、「三歩進んで二歩半下がるか」と笑う同社

類保管・管理サービスも「新しいことに挑戦した結果」だったという。同社の設立は1984年。「創業者が他の倉庫会社で働いていたころ、オイルショックの影響で預かるものがなくなりました。『預けるものと言っても書類しかないよ』という顧客の声で、書類の保管・管理サービスを考えた」という。創業者が稟議書を出して新しいサービスに取り組みとしたところ、「重要な書類を他の会社に預けるわけがない。やりたければ自分でやれ」との言葉に独立を決心

したという。「最初はパソコンもない時代。失敗して顧客の意見にも耳を傾けて、独自のシステムを作り出した」という齊藤社長。「現在あるwebシステムはその延長線上にあるもの。顧客の要望やクレームを真摯に採り入れていけば、結局はムダのない素晴らしいシステムを作り上げることができ」という。「顧客の声を聞く」という姿勢は、新しい事業にも徹底している。再来年1月に完成すると同社の物流センター。常温から冷

凍、冷蔵までカバーすることができると言っている。部長は「朝会を開いて情報の共有を図っている。部下に『社長が言っているから』というのではなく、自分がすべて理解した上で、部下に指示を出せる社員になってほしい。自分たちがなげ働いているのかを、しっかりと把握してもらいたい」という考えからだ。

「失敗するかどうかは、だれにもわからない。大切なのは、最大の努力をすること。初めから失敗しようとする人はいない。失敗すれば他の方法を考えればいい」と話す齊藤社長。再来年に完成する物流センターを事業の柱に成長させていく考えた。

(小西克弥)